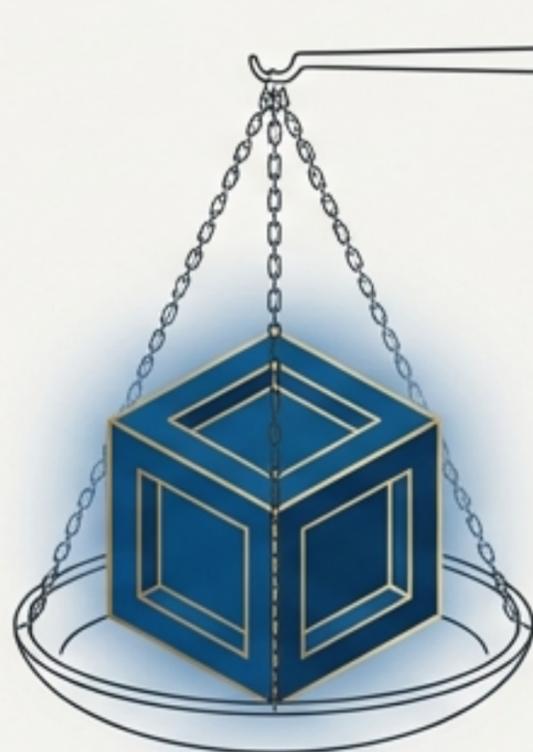


# 成長の覚醒か、財政の暴走か：第3回日本成長戦略会議の 全方位評価

高市政権「責任ある積極財政」が直面する期待と市場の警告



**Strategic Investment**

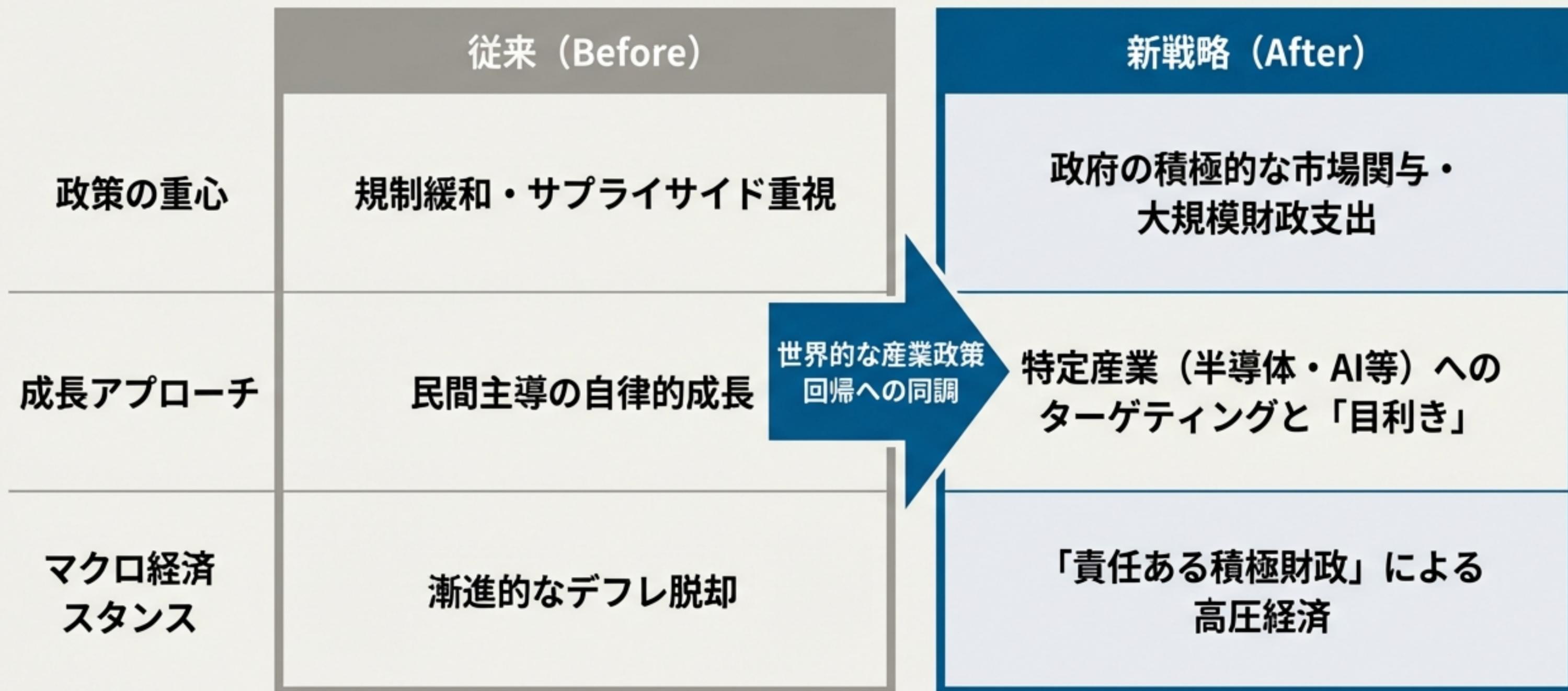


**Public Debt & Inflation**

令和8年（2026年）3月

国内外メディア・機関投資家・IMF・専門家の評価に基づく総合診断レポート

# サプライサイド重視から「国家主導の産業育成」へのパラダイムシフト



# 2つの柱と61の重点領域：官民一体の大規模投資アーキテクチャ

【半導体】2040年までに  
国内売上「40兆円」へ拡大

【AI・ロボット】世界シェア  
「3割超（20兆円市場）」の獲得

61の優先支援製品・技術

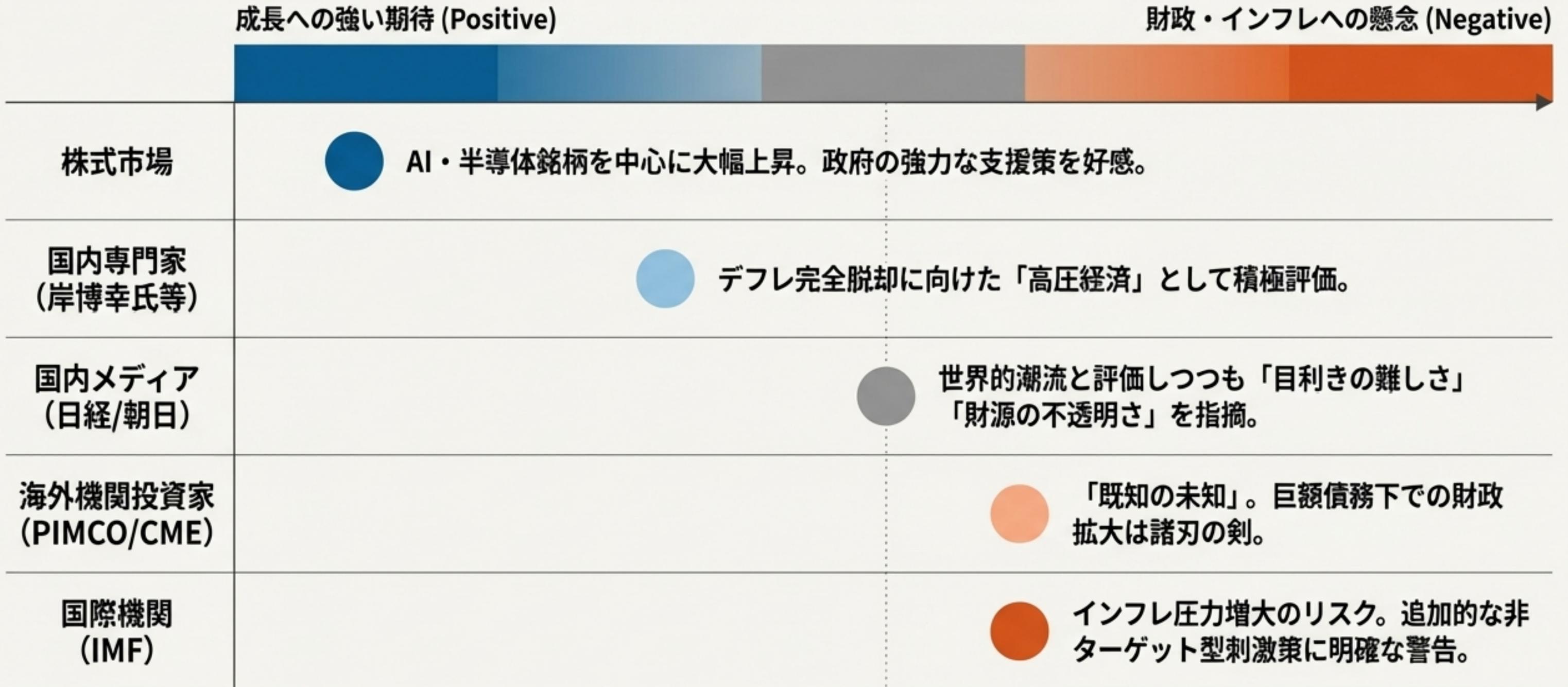
経済安全保障と市場獲得に向けた「17分野」の選定

危機管理投資

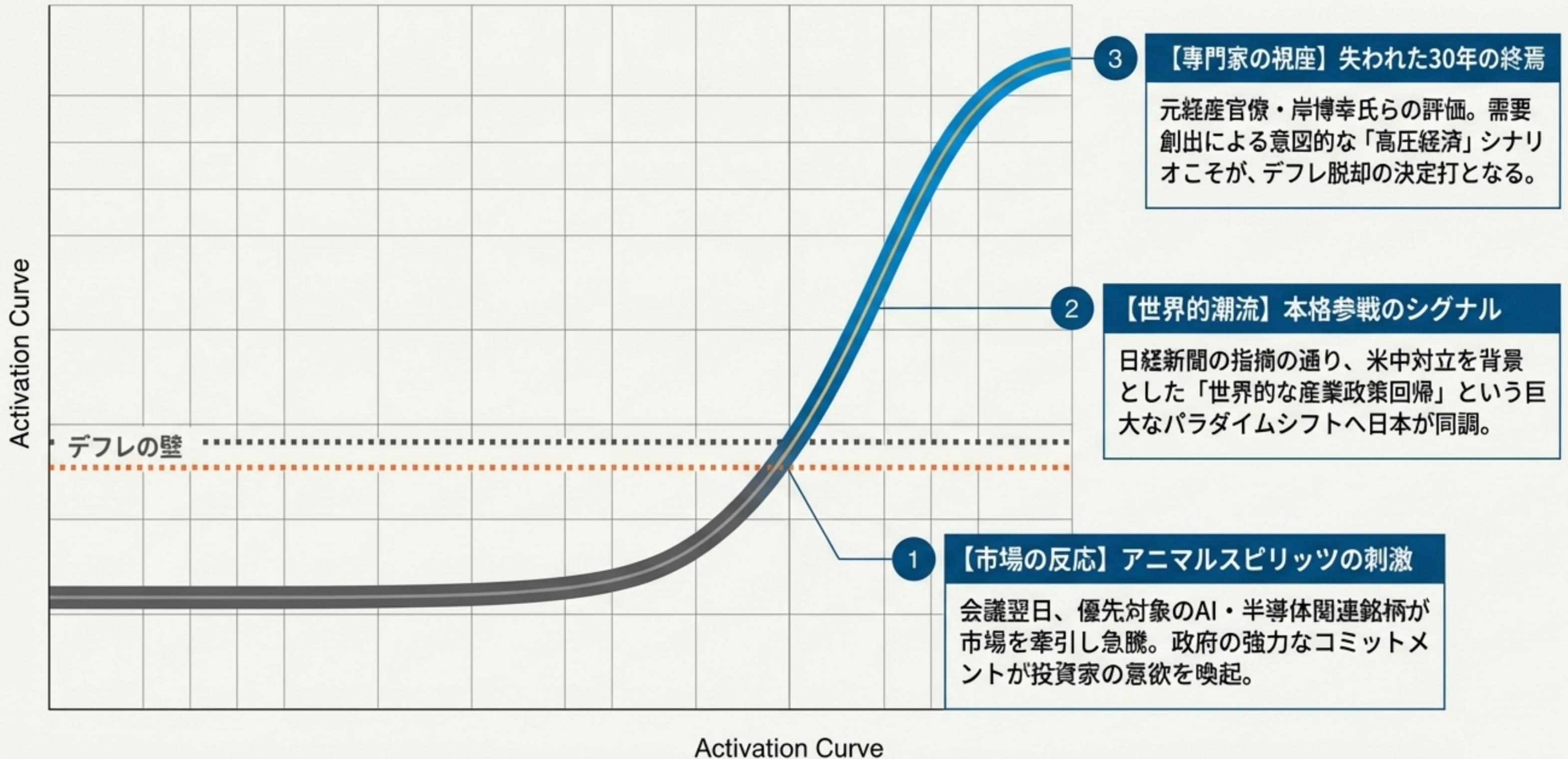
成長投資

Next Step:  
骨太方針（6月）に向けて  
「官民投資ロードマップ」と  
経済財政効果の試算を指示

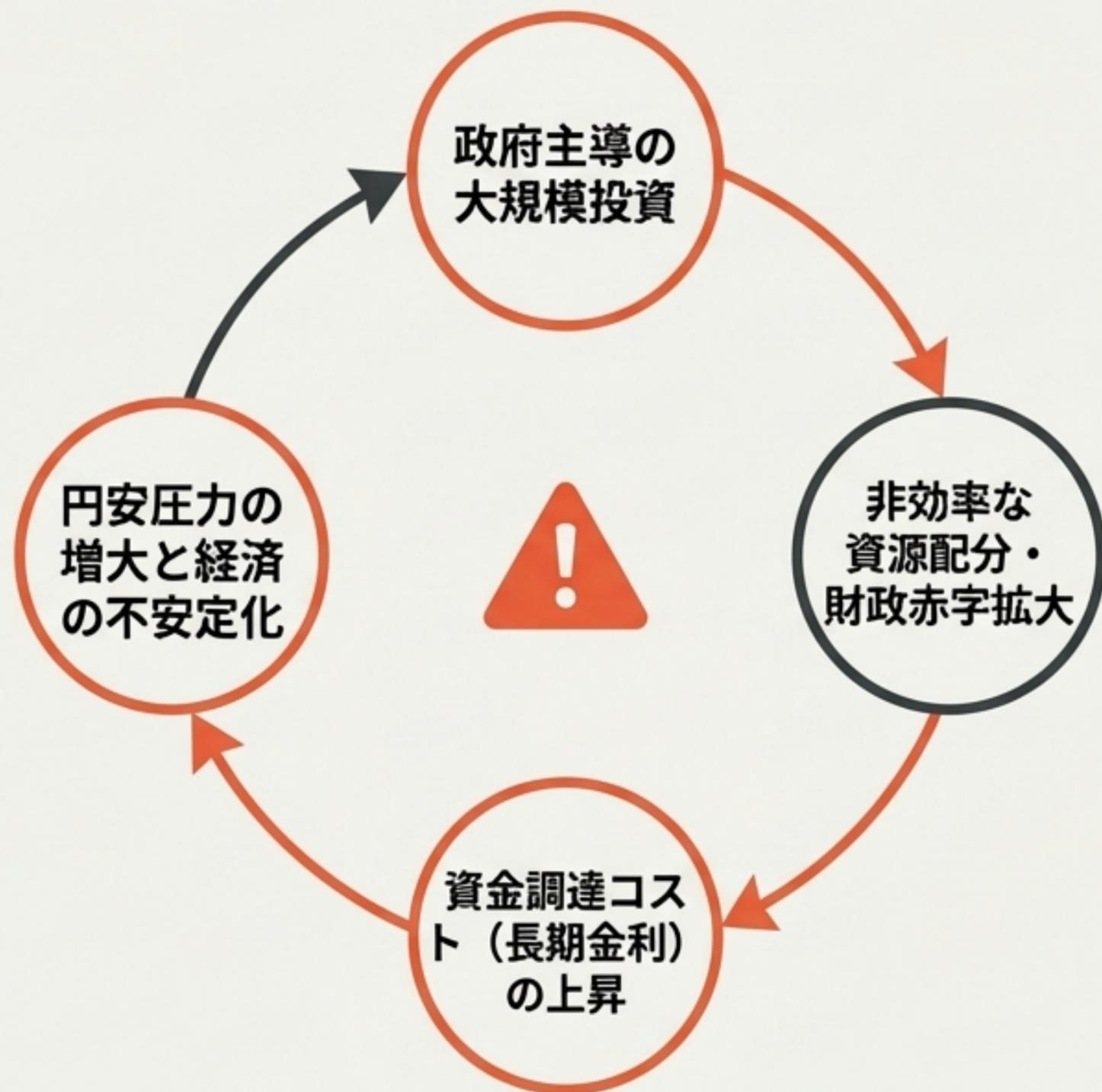
# ステークホルダー評価マトリクス：成長への期待と財政規律への強い警戒



# 成長のアクセル：デフレ脱却を決定づける「高圧経済」への期待



# リスクの連鎖：公的債務2倍超の日本が抱える「諸刃の剣」



## 【海外市場の警告】 CMEグループの分析

エリック・ノーランド氏の指摘。財政拡大は成長を加速させる一方、巨額の公的債務を抱える日本には「諸刃の剣」。金利上昇と円安の強力なトリガーになり得る。

## 【国内企業の懸念】 財政規律への不安

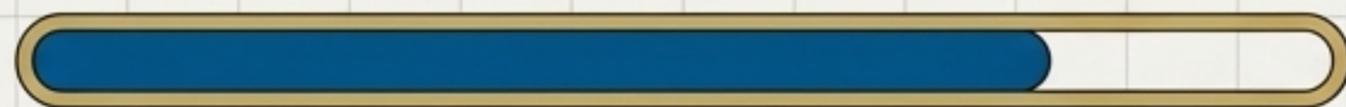
ロイター調査：日本企業の約3分の2が、高市政権の「財政規律」に対して強い懸念を抱いている。

## 【イノベーションのパラドックス】 野村総研の視点

木内登英氏の指摘。「企業が政府に依存するようになり、むしろイノベーションが阻害されてしまう懸念がある」。

# 「既知の未知 (Known Unknowns)」：試される市場の信認

## Knowns (既知)



政策の方向性・野心的な投資規模

## Unknowns (未知)



財源・金利正常化のペース・債務管理

### PIMCOの評価

正野友也氏（アジア太平洋ポートフォリオ管理責任者）の分析。現在の政策は、規模こそ明確だが構造的リスクにおいて「既知の未知」に満ちている。

### 真の焦点

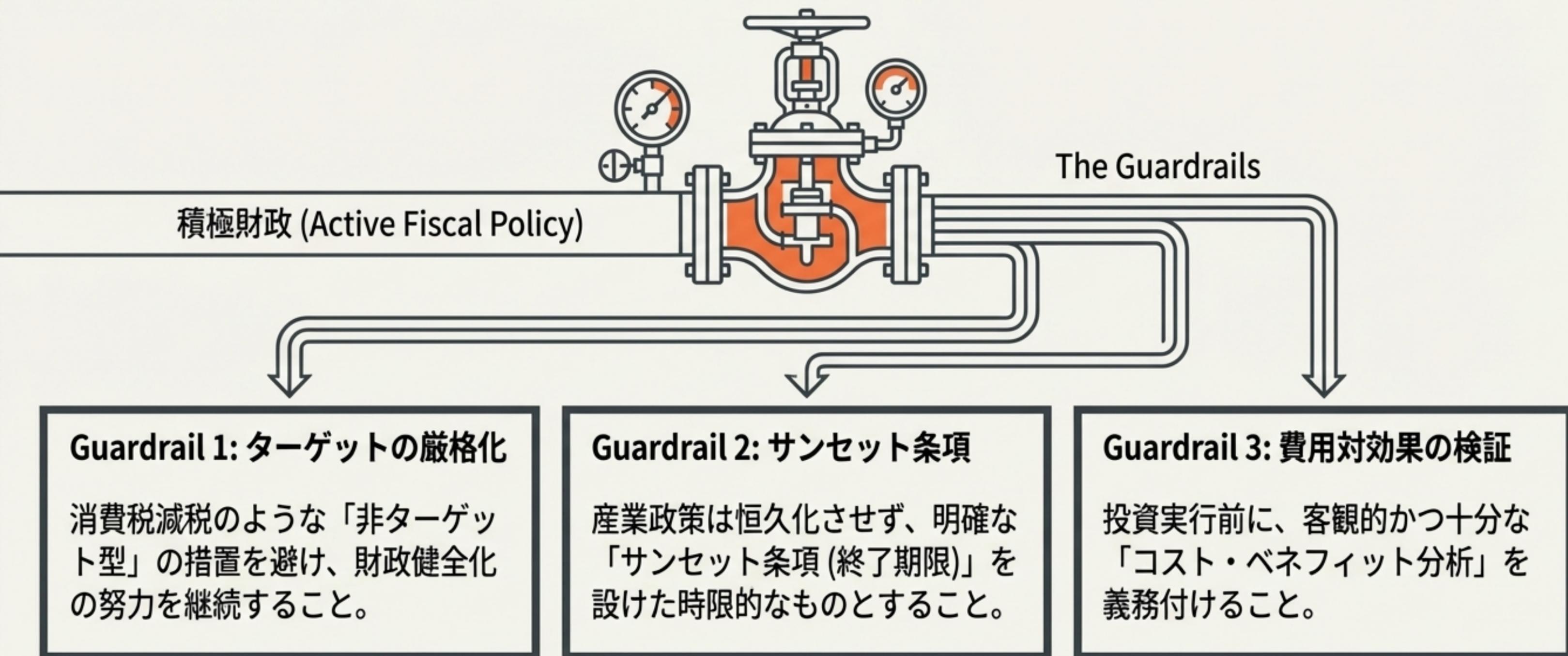
海外の機関投資家にとっての最大の焦点は、「政府方針が成長志向か否か」という表面的なスローガンではない。

### 分岐点となる条件

「政策実行によってインフレ期待が安定しし、財政の信認が維持されるかどうか」が今後の金融市場を完全に左右する。

# 国際機関からの警告：IMFが突きつける「3つの安全弁」

【コンテキスト】 2026年2月・IMF対日4条協議の結論声明における明確な勧告。潜在成長力を上回る経済環境下での追加刺激はインフレ圧力を高める。



# 展望とマイルストーン：6月の「骨太方針」が分水嶺に



- 高市政権の「責任ある積極財政」が成立するための道は極めて細い。
- 6月の「骨太方針」で、明確な財源の裏付けと財政健全化への道筋（IMFの求める分析と期限）を示せるかが分水嶺となる。
- これらを欠けば、市場の期待は一転して失望となり、金利急騰や円の信認低下を招く。真に「責任」を果たせるか、政権の手腕が厳しく問われる。